

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900057		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート西船橋		
所在地	千葉県船橋市西船2-34-20		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果市町村受理日	令和2年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和2年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様の生活の場として、施設ケアではなく、お客様主体の生活が出来るように支援しています。自分で生活をしている実感がもてるように日々ケアにあたっています。地域との交流も図り、近隣の小学校の職場体験やボランティアに来て頂き交流をとっています。 お客様が安心して生活できるよう、スタッフの明るく、笑顔で誠意ある対応を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームでは、毎月1~2回、外部から講師を招いて研修を行っており、サービスの質の向上と職員の意欲向上につなげるようにしている。また、ブログで情報を発信しており、利用者の日々の様子がよく分かり、家族などにとっても安心できる、よい取り組みと思われる。入居時に重度化や終末期に向けた支援について説明し、文書にて意向を確認している。協力医療機関とは24時間電話で対応可能となっている。協力医による看取りの研修も予定しており、支援体制がさらに整うと思われる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様、ご家族、地域の健やかな暮らしに貢献すべく、事業所全体で問題意識を持ってサービスを提供するよう努めている。	健やかな暮らしの為に安心して過ごせる環境をつくり、一人ひとりについて、その人らしい支援を考えている。利用者が安心、安全な生活を維持できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの中学校の職場体験や小学生との交流会のほかに、近くのスーパーに買い物に利用者とともにやっている。また、地域で活動している花器作りボランティアや音楽ボランティアに定期的に来て頂いている。	毎年職場体験で中学生を受け入れている。小学生との交流会で一緒に歌、踊り、ゲームを楽しんだこともある。また、自治会のボランティアサークルによるマンドリンなどの演奏も毎月あり、サークルに加入する職員もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流も継続的におこない、少しずつだが認知症の方がどのようなものか、関わりの中で理解していただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議により、参加者の意見・要望等を聴き、事業所の運営に活かしている。不適切ケア、虐待防止についての取り組みの報告等。	地域包括支援センター、地域の薬局、地域住民、利用者などが参加して、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年6回開催している。活動報告や事故、ヒヤリハット報告がされている。	議事録からは意見交換などが把握できない状況である。その場になかった職員とも共有できるような議事録を作成することも検討すると良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや市役所の担当者と事ある毎に相談して助言を仰ぐようにしており、協力関係は築けていると思われる。	市の担当課には何かあれば相談している。また、市が主催する就職説明会には管理者が準備メンバーとして参加するなど協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修や面談、日々の業務の申し送り等により、職員全体の身体拘束に対する意識向上を図っている。	「身体的拘束等適正化のための指針」を策定し、年2回の研修を実施している。研修は全員が参加できるように複数回開催するなどの工夫をしており、外部から講師を招くなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修をおこなっている。また、スタッフ同士で話し合いの場を設けてケアのやりかたなど情報交換をし、介護する側の過度な負荷がかからないように、努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修や指導を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分に時間をとり、お客様や家族への説明や不安点の聞き取り等を行った上で、利用するサービスを選択していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際、密にお話をする機会を設けて、利用者の状態やおこなっているケアについてお話をしている。	家族の意見は家族来訪時などに聞き取るようにしており、利用者の意向などは普段の会話の中で把握するようにしている。意見については反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員がお互いに意見や相談等しやすい雰囲気を作れるように心がけている。定期面談を実施して意見を交換する場を設けている。	毎月の定例会議や個別の面談の場で意見を吸い上げるようにしている。また、職員は日々自由に提案できる。出された意見については検討して反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の能力ややる気を評価して、職員全体の資質向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やリーダー研修などで、他事業所との情報交換の場を設けている。また既存のスタッフに対して、力量に応じた研修をおこない、認知症の方への理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に定期的に参加し、他事業所との情報交換をおこない、連携ができるよう努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談や入居時も出来る限り、本氏の様子を把握し、聞き取りをおこなっている。意思の疎通が難しい方は、ご家族様からも聞き取りも交えて、情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や初回面談では、本人の状態だけではなく、ご家族様が困っていることは何か(主訴)を聞き取るように努めている。また、施設に来て頂き直接お話しを聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを窓口として、他事業所とも連携をとり、その方に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様という関係ではなく、互いが生活のパートナーであるという観点から、生活上必要なことは可能な限り職員と一緒にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会にこれるように、本人のことだけではなく、ご家族様との日常会話も積極的におこなっている。また通信等でお客様の日々の様子をご家族様に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会はあるが、お客様が以前より交流があった方が会いに来ることは少ない為、交流が持てるよう年賀状やお手紙等お客様に書いて頂く機会を作っている。	家族などの面会、家族と一緒に正月を過ごす、お墓参りに行くなど、これまでの関係性が継続できるように支援している。また、入居後に新たな関係性を作る事にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事への参加や外出イベントなどでコミュニケーションを図るほかに、散歩や買い物、レクリエーションなど日常のなかで関わりをもてるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを解約した方にも、今後も何かにつけ相談していただけるよう声をかけており、相談があった際には契約の有無に関わらず真摯に対応するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人だけでなく、家族の意向にも適合するケアプランを立てるよう努めており、実行されているかどうか随時検討を行っている。	入居時に本人と家族の意向をよく聞き、本人が発した言葉や行動から気持ちを探りながら、思いの把握に努めている。得た情報は、申し送りノートに記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で生活歴等の情報を把握することの重要性について指導を行っている。適宜会議等で、情報を提示して考える機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで管理者から現場のスタッフが集まって、報告やケアの方針についてお話をする場としている。また、各ユニットで定期的に会議をおこないケアカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様・お客様・介護職・提携医療の意見をとりいれて、介護計画を作成している。	聴き取った本人や家族の思いや意向、職員の気づき、介護記録等の情報を基に介護計画を作成している。定期的な見直しの他、職員からの提案なども検討して随時見直し、現状に即した計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや業務日誌、個人記録の記入により、職員間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変動する、本人や家族のニーズに合わせて柔軟に対応できるように心がけている。また、状態の変化がある際はサービス担当者会議を開催して、話し合う場をもうけている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については現在は不十分な面もあるが、地域の小学校やボランティアとの交流する機会を大事にするように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	場合によっては受診に付き添う等して、医療機関との情報交換に努めている。緊急性のある場合も、医療機関とご家族様と迅速に連携が取れるようにしている。	ホームの協力医療機関の医師による毎週の往診で利用者の健康管理をしている。専門医への通院も職員が同行するなどの支援をおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と情報交換を密にし、対応について指導や助言を頂くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から医療機関を定期的に訪問したり、入院時には、先方のSW等と緊密に連絡を取り合い、スムーズに退院できるような体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携している医療機関やご家族様とお話を密におこない、本人の最後のあり方について協議して支援している。	入居時に重度化や終末期に向けた支援について説明し、文書にて意向を確認している。協力医療機関とは24時間電話で対応可能となっている。協力医による看取りの研修を予定しており、支援体制をさらに整えていくとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修等を行うことで、職員が学ぶ機会を作り、過去の事故の事例についても検討し、同様の事故を起こさない為にどうすべきかを話し合う機会を設けている。夜間、日中でも緊急対応ができるようにシミュレーションをおこなう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、地元の消防署との連携のもと、消防訓練を行っている。	年2回、日中および夜間想定避難訓練を実施している。水や食料を倉庫にて3日分備蓄しており、備蓄品リストも整備している。防災マップを貼り、有事に備えている。	災害時に階段を利用した避難が困難になりつつある。地域の協力体制構築に向けて働きかけることも必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が個人の人格を尊重し、もしこれを損なうような言動があれば、互いに注意しあうようにしている。	一人ひとりのプライドやプライバシーの保護を大事にしており、研修でも学んでいる。管理者は職員の声かけ等について現場で気づきがあれば、その場で一緒にどのような声かけがよいのか考え、申し送りノートで共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のちょっとしたことでも、職員ができる限り、本人が自分の意思で選択できる機会を増やすように心がけている。その方のニーズは何か常に考えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の生活のペースを崩さないように、出来る限り見守りをおこない、自宅と同じような雰囲気・印象になるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や洗髪の外に、訪問美容を利用したり、近くのお店に洋服を買いに行ったりして、身だしなみに気をつかえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はお客様と出来る事は、協働で作業している。また、食べ放題に行ったり、おやつを食べにフードコートなどに出かけたりしている。買い物へ行き献立作りから調理までを一緒におこなう時間を持つ。	食材業者から届く食材とメニューに沿って職員が調理をしており、利用者もできる事で参加している。時には、利用者の希望を聞いて天ぷらそばにしたり、外食なども取り入れて食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に記入して把握し、また申し送りで不足の方を報告して把握している。飲み物のバリエーションを増やし、好みものを選べるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。また、希望がある方や、口腔内に問題が発生した場合は、訪問歯科を受けて口腔内の治療をおこなっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えがある方は、その度にトイレ誘導をおこない、意思疎通が難しい方に関しては適宜トイレ誘導をおこない、失禁して不快な思いをしないように努めている。	排泄記録表を作成しており、一人ひとりの排泄パターンを把握している。リハビリパンツを使用している人も含めて、トイレに誘導するなど自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動く機会を多くもつよう努めている。また、食事形態を見直したり、身体を動かす機会を増やしたり、腸の機能が低下しないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定者はある程度決まっているが、便で汚れてしまったり、発熱などの症状があったり、本人より希望によって決定している。	浴室は清潔で、週2回は入浴できるように支援している。職員と会話を楽しみながら、一人ひとりの状態に沿った支援に努めている。入浴をしたくないという場合の声かけの工夫など、職員間でアイデアを出し合い、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境を整えるように支援している。また、自宅にいた時の生活を再現できるように、使い慣れた物を持参していただく場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修をおこなっている。また、薬剤師からの情報をスタッフ間で共有し、適宜管理者やケアマネージャーに報告をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもっていただけるように、生活の中で作業をしていただいている。施設内だけでなく、個人の趣味嗜好に合わせた場所へ出掛ける機会をもうけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行くのでも、“おやつを買いに行く”などの目的をもっていただき、外出支援に努めている。ご家族と外出される機会も定期的に作れている。	天候や気候のよい時は、近所のコンビニエンスストアにおやつを買いに行ったり、周辺を散歩をしている。この他、お花見、ショッピングセンターへの買い物や外食など、外に出る機会をつくるようにしている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができる方については、自分で持参していただき、管理できない方については、家族からお金を預かり、本人から希望があれば使っていただくよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある時には、電話を繋いで交流がとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けをし、また風通しが良く外の空気を取り入れるように努めている。また、お客様の作成した作品を飾るようにしている。	リビングは明るく、寛げるようにソファなども置いて、居心地がよさそうな空間となっている。温度、湿度などにも配慮しており、訪問時にも加湿器が複数台稼働していた。また、毎食前のテーブルの消毒、夜勤者による廊下やイスなどの消毒など、感染症予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の個性や人間関係に配慮してテーブル配置や座席の場所を考えるようにしており、一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう柔軟に座席の変更を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた衣類やダンス・テレビなどの製品をご家族様と相談しながら持ってきていただいている。	居室のドアには職員が手作りした表札が掛けられている。自宅から持参した家具も置いてあり、落ち着ける場所となっていると思われる。掃除も行き届き、温度・湿度計が全室にあるなど、環境管理を徹底している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、手すりが設置してあったり、車椅子で問題なく行動できるような構造になっており、歩行が不安定な方や歩行器を使用する方にも安全に生活していただけるよう配慮している。居室内も危険がないような物の配置にしている。		

【評価機関】